

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

広島県 盈進中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設定、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年12月19日（水）

■ク ラ ス：2年A組（27名）

■オリンピアン：中村 麻衣 先生（水泳／シンクロナイズドスイミング ※現:水泳／アーティスティックスイミング）【出場オリンピック／ロンドン大会、リオデジャネイロ大会】



■授業のながれ：運動の時間（1時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日の授業では3つのオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を学んでほしいと伝えた。
- ・準備体操として、ストレッチを行った後、じゃんけん勝ち抜けを全3回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳びを全3回実施。2班ずつ2チームに分かれて、引っ掛かっても続きから回数を数え、90秒間に跳べた回数を競う。

4. まとめ



- ・運動の時間は全力で楽しく取り組めたのではないかと話した後、座学の時間は運動の時間の取り組みを踏まえて行うと予告。
- 運動の時間にどのような気持ちで取り組んだのか、チームがどのような雰囲気だったのか等を振り返り、整理してほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・リオデジャネイロ大会の映像や実際に使用した水着等を見せながら、競技について紹介。
- ・中村先生にとってのオリンピックバリューについて、エクセレンス「卓越、ベストを尽くす、頑張る」、フレンドシップ「友情、お互いを理解する、チームワーク」リスペクト「敬意/尊重、フェアプレー精神を育む、自身を取り巻く環境への配慮/感謝」と説明。

3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返り、意識したことや頑張ったこと等をオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：「最後まで諦めない」「目標を明確にした」「振り返りをして次どうすればもっとよくなるかを考えた」（エクセレンス）、「引っかけたしまっても責めずに励ますことができた」「皆で声を出した」「アドバイスあう」「相手の得意不得意を理解してカバーした」（フレンドシップ）、「縄を回してくれる人に感謝」「失敗しても責めない」「挨拶をしっかりする」（リスペクト）

4. まとめ



- ・グループワークでは運動の時間を振り返りオリンピックバリューについて考えてもらったが、日常生活の中にもオリンピックバリューを感じられる瞬間はたくさんある。今日学んだことを、今後の学校生活や、目標の実現に向けて努力する場面で活かしてほしいと伝え、授業終了。

実 施 内 容

■期 日 : 平成30年12月19日 (水)

■ク ラ ス : 2年B組 (26名)、2年C組 (26名)

■オリンピアン : 木田 知宏 先生 (射撃/ライフル射撃) 【出場オリンピック/アトランタ大会】



■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、3つのオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について説明し、運動の時間は「全力で取り組む」「仲間と協力する」「フェアプレー精神を持って、ルールを守る」よう伝える。
- ・ストレッチの後、じゃんけん勝ち抜けを全3回実施した。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳びを全3回実施。2班ずつ2チームに分かれて、引っ掛かっても続きから回数を数え、90秒間に跳べた回数を競った。木田先生から「皆で意見を出し合ってチームとしての作戦を立て、協力してお互いを盛り立てながら実践する」取り組みの中にもオリンピックバリューが含まれていると伝える。

4. まとめ



- ・授業冒頭で約束した3つのことがしっかり実践できていたと伝え、次の座学の時間は木田先生の経験談等を交えながら、オリンピックバリューについて掘り下げて学ぶので、皆の今後の生活にどのように活かせるかを考えてもらいたいと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・アトランタ大会等の映像を流し、競技について紹介。
- ・木田先生が競技を始めたきっかけやオリンピックに出場するまでの経験を通して、オリンピックバリューについてエクセレンス：「卓越」「ベストを尽くす」、フレンドシップ：「友情」「お互いを理解する」「リスペクト：「敬意/尊重」「ルールを守る」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：駅伝大会で良い結果を残すために取り組みたいこと、意識したいことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：「自分のベストを尽くし仲間いたすきを託す」「最後まであきらめない」「体力をつける」「本番と同じように走る」(エクセレンス)、
「相手を取りやすいように襷を渡す」「チームの心を1つにして協力する」「応援する」「円陣を組む」(フレンドシップ)、
「ルールを守る」「走れることに感謝する」「速く走れる人のコツを聞く」「走り終わったらプラスの言葉を掛ける」(リスペクト)

4. まとめ



- ・射撃は個人競技だが、仲間が試合に出場する時は応援に行く。皆も駅伝大会では仲間を応援し、走るのが苦手な人がいればサポートしてたすきをつないでほしい。オリンピックバリューは皆の日常生活の中にも見出すことができ、意識することで目標を達成する確率が高くなる。
- ・競技紹介の映像を見せ、射撃を見たり体験したりする機会はなかなかないと思うが、興味があれば挑戦してほしいと話す。東京2020大会では、世界でメダルを獲得している選手が日本に来るので、ぜひ興味を持って見てほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年A組



2年B組





■ 集合写真
2年C組



■ 記念品贈呈
2年A組



2年C組



2年B組



■ 修了証贈呈

